【 重 点 目 標 】

1 豊かな人間性の育成

【道徳教育や体験活動を充実させ、豊かな心を育む。】

- ① 児童が自己を肯定的に受け止めたり、他者との関わりの中で自分の特徴を知ったりする中で、自己の生き方を考えることができるようにする。
- ② 児童が日常生活での問題や自分の生き方に関する課題に対して、自らの力で考え、よりよいと判断したり考えたりする中で、主体的な判断のもとに行動できるようにする。
- ③ 他者との関係を主体的かつ適切に持つことができるようにする。
- ④ ①～③のような思考や判断、行動を通して、よりよく生きるための営みを支える基盤としての道徳性を養う。

2 豊かな知力の育成

【言語活動を充実させ、確かな学力を育む。】

- ① 児童が「考えたい」「解決したい」といった意欲や「自分の考えは正しいか確かめよう」「他にもっといいアイデアはないか考えよう」と粘り強く考えようとする態度など、主体的に学習に取り組む態度を養う。
- ② 児童相互が「自分の考えを伝え合う」「友達の考えを聞き合う」「お互いの考えを確かめ合う」「お互いの考えをよりよくし合う」といった協働性を重視する。
- ③ 家庭との連携を図り、家庭での学習課題を適切に課したり、学習計画の立て方や学び方を促したりするなど、家庭学習も視野に入れた指導を行う。等
- ④ i P a dを効果的に活用する。

3 健やかな身体の育成

【心身の調和的な発達を大切にし、健やかな心身を育む。】

- ① 児童自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、心身を鍛えることができるようにする。
- ② 児童が身近な生活における健康に関する知識を身に付けたり、必要な情報を自ら収集したりしながら、積極的に健康な生活を実践することができるようにする。
- ③ 栄養のバランスや規則正しい食生活、食品の安全性などの指導を充実させ、生涯にわたって健やかな心身や豊かな人間性を育むための基礎を培う。
- ④ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査などを用いて、児童の体力や健康状態等を的確に把握し、計画的、継続的、効果的に指導する。